



広
報

せとうち

SETOUCHI



あけまして
おめでとうございます！

今月の主な記事

新年のあいさつ
北大島地区高齢者スポーツ大会
元ちとせさん、観光大使に
まちの話題

人口のうごき

平成19年 12月 1日
総人口 10,692(-13)
男 5,113(-4)
女 5,579(-9)
世帯数 5,578(-4)
カッコ内は前月との比較

発行:瀬戸内町 編集:企画課 ☎0997-72-1111
瀬戸内町ホームページ <http://www.amami-setouchi.org>
瀬戸内町特産品販売組合「ゆりどろ」 <http://www.yuridoro.com>

平成20年・年頭のあいさつ

～住民参加のみちづくり～

瀬戸内町長 房 克臣



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

町民の皆様をはじめ全国各地でご活躍の皆様方にとって心新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、町民の皆様には、日頃から町行政運営に対し温かいご支援・ご協力を頂き、心から深く感謝申し上げます。

私事になりますが、昨年、町民の皆様方のあたたかいご支持を賜り、6月25日に第5代瀬戸内町長として就任し、町政を預からせていただいております。

以来、就任後約半年を経過致しましたが、公約に掲げた「住民参加のみちづくり」を基本理念に町政運営を推進し

てまいりました。

昨年はその公約の取組みの一つとして、住民の皆さまと行政の間に信頼感を醸成し、住民と行政とが密接な連携をとりながら、皆さまのご意見を積極的に取り入れた町づくりをするために、11月12日から各集落に向き「町民と語る会」を開催しております。

この中で町民の皆さんに、町が抱えている危機的財政状況や行財政改革を説明し、現在、町が取り組んでいる主な事業や今後の振興策について説明しました。

今後とも「町民と語る会」を行うことにより、町への要望を伺ったり、語る会を通じ町の情報を提供し、住民参加の町づくりを進めていきたいと考えています。

昨年は町民待望の総合交流施設「せとうち海の駅」が完成し、大型クルーズ客船「にっぽん丸」も入港接岸しました。このことにより、官民一体となった「きゅら島観光受入協議会」が発足し、盛大な歓迎セレモニーが催されました。「にっぽん丸」寄港に伴い大勢の旅行者が来町したこ

とにより、昔懐かしい活気ある「港町せとうち町」の再現を多くの町民共々感じ取ることができました。

本年度は、「ぱしふいっくびいなす」や「飛鳥」「ふじ丸」等の寄港も予定されており、クルージング観光を推進した産業振興が一層期待されているところであります。

その他に、公約に掲げた施策を実現し、本町の活性化を図るために大型プロジェクトが多数計画されております。

また、平成20年度末で期限切れとなる奄美群島振興開発特別措置法の延長に向けて県・地元市町村等と連携し、一



「にっぽん丸」入港で活気づく古仁屋港



注目を集める特産品

体となった取り組みを進めていきます。

さらに、本年度策定予定の長期振興10ヶ年計画で位置づけしていく事業として、公共下水道等の整備促進、世界自然遺産登録の推進、各種情報通信基盤の整備促進、クロマグロ等の地域資源を活用した地域ブランド品の研究開発、手安ヘリポートの改築移転事業の推進、与路島・請島のゴミ処理に関する調査検討、青少年健全育成のための夏期ヨットスクール開校、瀬戸内町観光大使によるPRの推進等、これらはいずれも、快適な町民生活の保持と向上に向けた

重要な施策であり、その実現に向けて国・県や関係機関のご支援とご協力を頂きながら全力で取り組んでまいります。最後になりましたが、この新しい年が明るい話題に満ちあふれ、皆様のご健康で災害のない穏やかな年でありませよ、心から願ってやみませ

ん。
まちづくりは、行政の力だけでなく、町民の皆様と行政が互いに情報を共有し、知恵を出し合い、心一つにして取り組むことが重要であると思っております。

住民と行政が互いに力を合わせ、手を携えて、町民との共生・協働のみちづくりを目指してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

瀬戸内町議会議長

昇 清隆



町民の皆様、明けましておめでとございます。

輝かしい新年の幕あけと共に、皆様方ご家庭におかれましては、一家団らんのお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、バブル崩壊後のわが国を襲った景気低迷は、かつて経験したことの無いほど長期にわたって続いており、税収の大幅な下落に伴って本町の財政を悪化させ、極めて危機的な状況に至っており、また国が行なう財政再建においても、補助金や地方交付税の削減がさらに追い打ちとなって、

地方公共団体の財政は圧迫され始めております。

このような中で、瀬戸内町も一つの自治体として前途楽観を許さない現状におかれており、財政再建に取り組まなければならない状況となっております。

この状況から少しでも早く脱却するためには、できる限り歳出削減に努めるとともに、歳入を増やす可能性を追求し、行財政運営の効率化を図るための積極的な取り組みを重ねなければなりません。

そのため、多くの問題を抱えながらも、住みよいまちづくりのため、私たち議決機関としての確かな政策判断が望まれるところであります。

また、私たちの日常生活におきまして、国の進める税制改革による今後の所得税や消費税の影響、また社会保障の新たな方向性として示された平成12年創設の介護保険制度や平成21年度までを目標に段階的に行われていた年金制度の改革、平成20年度より実施されよ



瀬戸内町役場庁舎



本格的な高齢社会を迎えて（北大島地区スポーツ大会）



瀬戸内町議会議場

住民の代表としてその権限を最大限に発揮し、郷土瀬戸内町のために努めてまいり所存でございます。

今年には町議会議員改選の年であります。町民の期待に応えるべく、議会も尚一層の努力をいたしますので、何卒、叱咤激励の程よろしくお願いいたします。

むすびに、町民の皆様のお健勝と御多幸を申し上げます。一詩を贈り新年のご挨拶とします。

せいのね 重ねて来たらず
いちじつふたあした
「日再び慶なり難し」
時下及んで当に勉勵すべし
歳月は人を待たず

うとしております新たな後期高齢者医療制度など、21世紀の本格的な高齢社会を迎え、社会はいろいろな変革の時代を迎えており、今後とも本町の進める行財政改革はもとより、国の動きにも注視していかなければなりません。

私も議会におきまして、これらの制度改革等が住民福祉の向上と少子高齢社会への対応として、すべての人々が地域で安心して生き生きと暮らすことができる社会を実現するための取組みとして行われるよう、



「子」の年の年頭にあたって
瀬戸内町教育委員会
教育長 徳永 敬次



新年あけましておめでとう
ございます。

ご家族お揃いで、新しい年
を寿ぐとともに心機一転決意
も新たに、それぞれのご家
庭が奮起して、多くの幸せ
が訪れますように、心から
ご祈念申し上げます。

さて昨年度は、教育界に
とっては大変な年でした。
60年ぶりの教育基本法の改
定に始まり、教育再生会議
の活発な意見具申や教育関
連三法の改正等まさに教育
改革の嵐が吹き巻き、未だ
止まることを知らずの状態
にあります。

また、学校給食費は義務

教育だから国が負担すべきで
あるとか、平日に子どもを連
れて家族旅行するから、担任
に後で個別指導してくれとか、
保護者等からの無理難題や理
不尽な要求が増えてきている
のも昨今の傾向であります。

以上のような国内の政治的
・社会的な背景がありますが、
本町の平成20年度の課題を、
次の三点に絞って提示してみ
ました。



町民の学習拠点「図書館・郷土館」



子ども島口・伝統芸能大会

一点目は学力向上です。本
町では、県が実施しておりま
す「基礎・基本」定着度の結
果から、児童生徒に基礎学力
をつけていくことが喫緊の課
題となりました。そこで、平

成19年度・20年度の2力年に
わたり、古仁屋小学校が大島
地区研究協力校の指定を受け
て、教職員が一丸となって研
究実践に励んできました。ま
た各家庭も、「家庭学習60
・90運動」等で、学校と連
携を密にして一体となつて取
り組んでまいりました。そこ
で、去る11月13日に、町内外
から多数の教職員を招いて研
究公開を行い、その成果を発
表したところであります。

いくことが、最大の課題とな
っております。

次に規範意識の涵養が大き
な課題です。動物学者で二ホ
ンザルの権威である元京都大
学 霊長動物研究所長の河合雅
雄先生から直接聞いた講義の
中で、「猿格は人格に勝る」
という言葉が強く印象に残っ
ています。猿の社会では仲間
同士で、「傷つけない、殺さ
ない、食べない」という厳然
たる掟があり、それが徹底し
ているそうです。しかし人間
社会では、仲間を「食べる」
例はあまり聞きませんが、「傷
つける、殺す」は日常茶飯事
です。

猿と人間の習得の大きな違
いは、前者が生得的な「すり
こみ」であるのに対し、人間
の場合は、後天的な「家庭・
学校・社会の教育」によるも
のです。また、狭山ヶ丘高校
の小川義男校長は、自我が育
っていない小学3年生位まで
に、問答無用で「殺すな、盗
むな、嘘をつくな」といった
人間としての根本価値を、し
つけとして叩き込んでこなか
った戦後教育の結果が、今日
の親殺しや子殺しに代表され

ていると指摘しております。
家庭のきまり、校則、交通マ
ナー等の遵守や道徳教育の充
実、さらには、日本人の特性
とされる「情緒と形」が求め
られています。

最後に社会教育として、多
くの課題の中から環境問題に
視点を絞って取り上げました。
「環境は人をつくる」と言わ
れています。まず自分たち
の住んでいる町の環境美化を、
大人が子どもにお手本を示し
ていくことが第一と考えます。
それは、「犬の糞のないまち、
ゴミのないまち、空き缶の転
がっていないまち、」づくり
をめざして、町民一人一人が
実践していくという取り組み
です。これはまた、奄美の世
界遺産登録につながっていく
道でもあると思っております。
今年も、どうぞよろしくお
願い申し上げます。





第35回 北大島地区高齢者スポーツ大会

9チーム900人
瀬戸内A、見事3位入賞

11月21日、清水総合グラウンドで第35回北大島地区高齢者スポーツ大会が開催され、喜界島と大島本島の6市町村から9チーム、900人が参加し、穏やかな秋晴れの下、楽しくさわやかに体を動かし、汗を流しました。本大会は、北大島地区の老人クラブ連合会の会員が一堂に会し、親睦と融和を図り、連帯と友情の絆を深めることを目的に、毎年持ち回りで開催しているもので、今年も瀬戸内町での開催となりました。



歓迎のあいさつ(川畑義夫会長)

大会は、「バケツの下がった竹竿を担いで音楽に合わせて六調を踊る「踊らにや損損」でスタート、ボーリングや輪投げ、ハッピーカラーなど7種目が行われ得点を競いました。各地区の代表選手たちは、日頃の健康づくりやサークル活動で磨いた体力とチームワークで、和気あいあいとした雰囲気の中で、元気はつらつとプレーに興じていました。

地元開催で、2チームが参加した瀬戸内はAチームが「玉入れ」や「メディシンリレー」で1位を獲得するなど健闘を見せ、総合でも3位に入賞し、大会に華を添えました。

【結果】総合順位
宇検村、奄美市住用支部、瀬戸内町A、龍郷町、奄美市笠利支部、瀬戸内町B、喜界町、大和村、奄美市名瀬支部



選手宣誓する計省三さん



こぼさず急いで！「ハッピーカラー」



息もピッタリ「メディシンリレー」



楽しんで！「踊らにや損損」



各所で賑やかな応援が



う～れっ！「ボーリング」



ナイススロー「玉入れ」

元ちとせさん、瀬戸内町観光大使に

〜足下にある大切な「心」を力強く歌っていききたい〜

11月13日、本町出身の歌手元ちとせさんに、瀬戸内町観光大使が委嘱され、町役場で委嘱状が交付されました。報道関係者が多く詰めかける中、大島紬姿で委嘱式に現れた元さんは「素敵な任務をいただきました。ライブ活動の中、瀬戸内の素敵な場所やおい

しい食べ物の話など、ふるさとの良さを素直に伝えていきながら、地元にもいいかたちで影響を与えていけたらいいですね」と抱負を語っていました。

授賞式の後、インタビューが行われ、ちとせさんは和やかな雰囲気の中で、記者団



奄美瀬戸内観光大使委嘱状を胸にする元ちとせさん

の質問に応じ、ふるさとへの想いや唄に対する気持ちを語っていました。自らの生まれ育った奄美・瀬戸内が原点であることを確認し、大切なことを忘れずに歌い続けたいという強い想いに満ちたインタビュー会見となりました。

元ちとせさんインタビュー 〜要約・抜粋〜



紬姿で会見するちとせさん

委嘱された感想は？

素敵な任務をいただきました。まず自分がふるさとの良さを感じて知って、それを素直に伝え、地元にもいいかたちで影響を与えられたらいいと思います。大使として心がけたいことは？

自分の中には100%奄美の血が流れています。歌う機会をとおし、奄美の「もの」以外にも「人柄」とか「空気」とかを届けていきたいです。ライブ活動の中で、瀬戸内の素敵な場所やおいしい食べ物など、島の人が一生懸命作り出しているものを少しでも紹介できればいいですね。

瀬戸内は心の「原点」、いいかたちのコミュニケーションが魅力 ～自分が一番楽しめることを心の底から大事にして～

デビュー5年を経て、改めて「奄美」とはどんな存在？

18年間育ってきた場所で、島にいたときは好き半分、嫌い半分なところもあったと思いますが、離れてみると、(奄美・瀬戸内は)自分の心が戻ってくる場所、原点に返れる場所であり、自分の中で、これまでも、そしてこれからも大きな存在であると思います。

瀬戸内の魅力は？

自然が豊かで人柄が温かいいというのが大きくあります。ものを一つあげるののは難しいですが、人と人がいいかたちでいつもコミュニケーションがあつて、お節介なこともあると思いますが、そういう温かさが瀬戸内の一番いいところだと思います。

町民にメッセージを

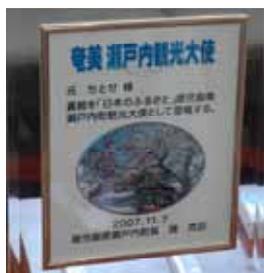
いつも温かく迎えていた、だくことに感謝しています。いつもこの場所(瀬戸内)を想いながら歌っています。ここからそれは変わりません。この場所、この風景と自然が壊

れないことを願いながら、足下にある大切なことを力強く歌っていきこうと思っていますので、受け取っていただければと思います。

「第2のちとせ」を目指すちびっ子たちへ

鳥唄や歌など、何かを始めるときかけに(私が)なっていることについては、すごく嬉しく思います。自分が一番楽しめること、それが鳥唄であるならそれを心の底から大事に思うことが一番大切なことだと思います。いつも笑顔で楽しんで、唄とか自分のやりたいことに向き合って欲しいですね。

今回、奄美でのライブなどは？(委嘱式のための来島で)ライブはありません。ただ、そこら辺のお家で歌っているとは思いますが・・・(笑)



観光大使委嘱状



松澤監督、観光大使に

〜第3回松澤GANカップ、古仁屋3連覇ならず〜



〜豊かなスポーツ文化を育て〜
観光大使委嘱状を手にする松澤監督



選手宣誓する古小6年の町田優斗君

11月6日、GANカップ開催などで、サッカーを通じた青少年の健全育成において本町にゆかりの深い鹿児島実業サッカー部の松澤隆司総監督へ、瀬戸内観光大使が委嘱されました。

17日と18日には、第3回松澤GANカップin瀬戸内大会が開

かれ、大島本島内から12チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。本町からも古仁屋と阿木名のスポーツ少年団2チームが参加し、いずれも予選を通過、決勝トーナメントに進出する健闘を見せました。2連覇中の古仁屋SPは惜しくも準々決勝で伊津部FCAに敗れ、3連覇はなりません。また、健闘を称え、阿木名複合SPにはチャレンジ賞が贈られました。



惜しくも3連覇を逃した古仁屋SPチーム



「チャレンジ賞」の阿木名複合SPチーム

築こう！文化の香り高い町

〜第32回瀬戸内町文化祭〜

11月17・18日、清水総合体育館で第32回瀬戸内町文化祭が開催されました。作品展示発表には、日頃の文化・芸術活動を通じて完成された美術品（絵画・デザイン・彫刻・工芸品・陶器）や書道作品、盆栽、写真、茶道薄茶席など多くの力作が並び、注目を集めていました。



絃姿で華やかに踊る「島のブルース」(日舞)

また、舞台発表では舞踊や島唄、ピアノ、ダンス、吹奏楽など、学校や各種教室等でそれぞれが習得した芸能29種目が披露され、バラエティに富んだ内容が観客を魅了し、芸術と文化に親しむ秋の2日間となりました。

早く完成して！勝浦トンネル

〜篠川小中学校生26人が見学〜

11月19日、篠川小中学校の児童・生徒26人が総合的な学習の時間を活用し、貫通間近の勝浦トンネル（延長1122m）を見学しました。掘削場所まで構造や機会説明を受けながら移動し、ドリルジャンボ機の実演を興味深く見学した子供たちからは、「難しいことは？」とか「トンネルの形はなぜ円い？」といった質問が飛び出していました。



網野子側坑道入口で記念写真（篠川小中学校生）

トンネルが完成すれば、距離で約3km、時間で約10分の短縮となる予定で、子供たちは「早く完成して欲しい」と感想を話していました。

熱い思いを生き生きと

〜中学校弁論・英語暗唱大会〜

11月22日、町内中学校の代表生徒による第40回弁論大会と第30回英語暗唱大会が、中央公民館で行われました。

午前中の弁論大会には町内14の中学校から代表16人が参加、日頃の学校生活で感じたことや人生、郷土について思うことなど、それぞれが中学生らしい自らの言葉で、生き生きと熱く語りました。午後からは英語暗唱大会とショートスピーチが行われ、暗唱した課題文や日常体験などを流暢な英語で語りかけていました。審査の結果、弁論・英語暗唱の部ともに油井中学校代表の久原澄香さんが最優秀賞を獲得しました。



両部門「最優秀賞」の久原澄香さん（油井中3年）

「町民と語る会」スタート!

「町民とのパートナーシップの確立に向けて」

11月12日から12月1日にかけて、加計呂麻地区の7カ所ので、町民との対話を通じた共生・協働のまちづくりを目指して「町民と語る会」が開催されました。

房町長就任後初の開催となる各会場には、各集落から約200人が参加、マニフェストの進捗状況や町の財政状況、今後の主要振興策、自治公民館活動についての説明に聞き入っていました。その後の意見交換では、情報通信基盤整備、定住促進対策、町財政の今後の展望など、多くの質問や意見が出され、有意義な意見交換の場となりました。「町民と語る会」は、今後、順次各地区で開催される予定です。



西阿室での「町民と語る会」

「癒しの島せとうち」カレンダー

「町内写真や年中行事も掲載」

「もつと愛して加計呂麻地域塾」(池田啓一塾長)では、この度、癒しの島での田舎暮らしを幅広く知ってもらうために、オリジナルカレンダー「癒しの島せとうち」を作成しました。

カレンダーには、これまで同塾が主催してきた「加計呂麻フットコンテスト」入賞作品のほか、町内での年間行事やイベント日程も掲載されていて、町内在住の方にも便利な内容に仕上がっています。

購入希望の方は、町内の各文具店、または役場企画課内・地域塾事務局(72)1112までお問い合わせください(1部500円)。



「2008 癒しの島せとうち」カレンダー

響け心に! わくわくの音楽!

「南九州大会初出場記念」

古中吹奏楽部定期演奏会
11月23日、古仁屋中学校吹奏楽部(丸山英児顧問、時田あやか部長、部員24人)の南九州大会初出場を記念し、第2回定期演奏会が、清水体育館で開催しました。

厳しい練習を乗り越えて、念願の優秀賞県代表に輝き、南九州大会でも銀賞を受賞する快挙を達成した部員たちは、他の小・中学校吹奏楽部や古中卒業生の協力も得て、支援者や地域住民への感謝の思いを込めて演奏しました。



子供たちも参加、楽しい曲目も披露されました

曲目は、南九州地区コンクールでも演奏された「サンライズ・マーチ」や「チェイサー」のほか、「ひよっこりひよたん」

島」や「ルパン3世」、ヒットパレードなど、バラエティに富み、会場を埋めつくした800人の観客を楽しませていました。

3年生にとっては最後の演奏会となり、支援者や地域に対する感謝に満ちた、涙が止まらない感動のステージとなりました。これからも地域に密着し、親しまれる吹奏楽部として、心に響く音楽を届け続けてください。



古仁屋中学校吹奏楽部員(24人)と指導者たち

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年(「子」の年。依(米)を抱く図が多いねずみは、財産(米)を守るのが上手で、財産を守る方法を教えてくれるとか。昨年の「町民と語る会」で印象に残ったことは「限界集落」。65歳以上の高齢者が、集落民の半数を超え、社会的共同生活の維持が困難な集落。全国では、6万2千余の集落のうち、12%を超える集落が、本町においては、市街地を含めた64集落中、23集落(36%)が該当する。集落はおろか、国も県も町も、財政的にはとくに「限界」状況に達し、今年は劇的な変化が起きそうな予感が「まちづくりは人づくり」と言われて久しいけれど、「人材」にもいるるあつて、どんな組織でも、なくてはならない存在、数合わせの存在、むしろマイナスとなっている存在がほぼ同数いる、もじって「人材」「人在」「人罪」だど何処かの講師が語っていた。大事なものは「在」から「財」へ、「財」から更に輝きを放つ「財」へと向かう、上昇志向と地道な歩み? 「限界状況」にあるからこそ、状況打開を願う、研ぎ澄まされた感性の中から、地域に埋もれる「財(宝)」の思わぬ発見があり、思い切った試みができ、結果、「災い転じて福となる」ことも。そんな、地道な努力に裏打ちされた「起死回生」の一打がうまれ、それが「連続打」につながる年にしたいですね。「子」の年にあやかっつて、「もの」において「人」においても、「財」を発見し、磨き、繁殖する年になることを願いつつ...今年もよろしくお願ひ申し上げます。